

# I. 熊本地震の被害と対応

## 1 地震の概要

平成28年（2016年）熊本地震（以下、熊本地震）

【最大前震】 4月14日（木）21時26分

マグニチュード6.5

最大震度7（上益城郡益城町）

震度5強（熊本市中央区）

※本紙における「前震」とは、この地震のことをさす。

【本震】 4月16日（土）1時25分

マグニチュード7.3

最大震度7

（上益城郡益城町、阿蘇郡西原村）

震度6強（熊本市中央区）

## 2 熊本地震による博物館施設・設備・什器類の被害

- (1) 本館：壁の欠損や梁のひび割れなど  
（『3熊本地震がリニューアル工事に与えた影響』参照）
- (2) 本館：敷地外構石積みの崩落
- (3) 本館：プレハブ収蔵庫の外壁破損  
（2月に修復済）
- (4) 民間契約倉庫：保管中の展示ケース21台破損  
以上4件のうち、(1) のリニューアル工事関連については国土交通省「社会資本整備総合交付金」（継続）を適用、(2)～(4) の被災復旧については文部科学省「公立社会教育施設復旧補助金」を申請予定である。



### 3

## 熊本地震がリニューアル工事に与えた影響

### (1) 地震発生直後の対応

熊本博物館は公開承認施設を目指し、全館リニューアル工事を進めていた。工事期間中は、空調などの設備が機能しないため、資料は館外の民間倉庫に保管していた。そのような状況下での被災であったため、被害は最小限に留まった。しかし、敷地内の斜面に設置していた工事現場事務所には傾きが見られ、後日、撤収を余儀なくされた（写真1）。



写真1 傾いた現場事務所

地震が起きたのは、リニューアルに伴う準備工事・解体工事が終わり、鉄骨工事・コンクリート工事・空調ダクト工事を開始する間際であった。地震後は、館内への職員等の立入およびリニューアル工事再開の可否の確認等が急務となり、リニューアル業務の施工監理者と設計者による簡易の応急点検が行われた。

4月19日（火）

設計者・施工監理者による目視調査

4月22日（金）

文化庁美術学芸課による現場視察

4月26日（火）

施工監理者による目視調査

目視調査の結果、深刻なダメージは見られないものの、専門家による点検を行った上でリニューアル業務再開の判断が必要との結論に至った。

4月26日（火）

営繕課・設備課・博物館・施工監理者・設計者による協議

4月28日（木）

施工監理者より地震に関する目視報告の提出

調査報告を受け、リニューアル工事は休止、現場事務所は一時撤収が決まった。また、博物館内への立入が禁止となった。

### (2) 博物館の躯体調査

リニューアル工事の早期再開を望んだが、工事中の被災例は少なく、調査方法の決定が難航した。日本建築防災協会が発行した『震災建築物等の被災度判定基準および復旧技術指針（鉄筋コンクリート造編）』に基づいて決定された調査方法は、仮足場等を設置し、博物館躯体の壁面を目視及び打診によって調査し、コンクリート内部やモルタル仕上げの破損状況を把握するというものである（写真2）。それに伴い、予算措置及び契約方法についても検討を重ねた。



写真2 躯体調査風景

調査を実施する際には、博物館全体に足場を設置する必要があり、調査に40日間、報告書作成に35日間で充てられた。調査と並行して、リニューアル工事スケジュールの見直しは、補強工事が必要な場合と不要な場合の両パターンで検討を開始した。

一方、工事が一時中断した状況下では、空調ダク

ト（成果品）の納品保管場所とその費用など、様々な問題が発生し、臨時建築会議等を開催して関係者で対応策を検討した。

6月8日（水） 臨時建築会議

7月12日（火） 臨時建築会議

臨時建築会議では、地震によって博物館敷地内の埋設管（電話回線・インターネット回線・水道管等）の一部が地中で破損した可能性についても指摘され、熊本城の特別史跡内に立地している当館は、文化振興課及び熊本城調査研究センターとも協議を行い、対応を進めた。

他方、公開承認施設を目指しているため、リニューアル工事を再開するにあたっては、文化庁美術学芸課と補強工事等の方法やその影響についても協議を行った。

8月1日（月）～9月15日（木）

躯体の現地調査

8月2日（火）

文化庁美術学芸課への報告と協議

8月19日（金）

躯体調査先行調査範囲報告

8月23日（火）

地震後の躯体調査中間報告と、今後の工程に関する打ち合わせ

8月24日（水）

先行調査範囲報告を受け、館内の特に被害が少ないと判断されたスペースでの空調ダクト（成果品）の保管が決定

9月16日（金）

躯体調査中間報告

9月27日（火）

地震後の躯体調査に関する結果報告と、今後の工程に関する打ち合わせ

躯体調査中間報告を受け、全体的には致命的な被害はなかったことが分かった。また、熊本城調査研究センター職員立会いのもと、9月27日・10月3日に埋設管の調査を行った。電話・インターネットの既存ケーブルの抜取が完了し、旧来の埋設ルートも

問題なく使用できることが分かった。しかし、水道管は漏水箇所を断定できなかったため、その供給経路を元栓から止めた。

8月29日（月）～10月31日（月）

躯体調査報告書作成

上記の躯体調査の結果、壁面のひび割れやタイルの浮きは多数見られたものの、耐震構造に大きく影響を及ぼすものはなかったため、リニューアル工事の継続再開が決定した。しかし、公共施設としての安全性を確保するために、建物外部（外壁・外構・壁・天井等）及び建物内部（柱・壁・梁・天井・天井パネル等）の各所について、それぞれひび割れやタイルの浮き等を調査・集計し、必要な箇所については補強を施すことになった。

また、地震前は博物館敷地内に設置していた工事現場事務所については、安全性を考慮して熊本城総合事務所や熊本城調査研究センターと協議の上、三の丸第二駐車場の一面に設置することになった。

### （3）プラネタリウム・ドームスクリーンの調査

臨時建築会議において本館躯体調査の検討を行う中で、プラネタリウム室（平成23年度に先行してリニューアル済）についても、安全性確認の必要性が指摘された。本館躯体とドームスクリーンは連結部分があるものの、個別に自立した造形物であったためである。

目視調査の段階では被害が確認されなかったものの、ドームスクリーンの歪み等の恐れがあるため、東日本大震災を経験した仙台市天文台などの例を参考に調査を行うことにした。

プラネタリウム施工業者によって、光波測定による偏差測定（写真3）等を行った結果、ドームスクリーンに被害は見られなかった。



写真3 プラネタリウム室調査

9月6日(火)・7日(水) 現地調査  
9月8日(木)～10月31日(月) 調査報告書作成

#### (4) 展示ケースの被害

リニューアル後に再利用する予定の既存ケースは、民間の契約倉庫に保管していた。地震直後の確認では、ガラスの破損程度で大きな被害はないように思われたが、業者立会いのもとで詳細な被害調査を行った結果、展示ケース21台がケース同士のぶつかり合いや振動によってキズを負ったりケースが歪んだりしており、付属の照明設備にも断線等の被害が見られた(写真4)。この調査を受け、当初の予定とは異なる修復を実施するための仕様書の作成と予算措置を行った。

4月28日(木) ケースの被害確認  
8月24日(水) ケースの詳細被害調査  
1月19日(木) 仕様書作成のための調査



写真4 破損したケースの硝子

#### (5) リニューアル工事の再開

躯体調査の中間報告を受け、9月20日より新たな現場事務所の設置が三の丸駐車場の一画で始まった。しかし、地震の影響により業者間調整や人員確保が難航した。

躯体調査の最終報告を受け、11月1日からのリニューアル工事全面再開を目指したが、本格的な再開は12月以降となった。また、調査によって指摘された箇所の補強工事も行われることが決定した。

また、地震に関連して展示内容を一部変更した。それに伴い、文化庁美術学芸課や東京文化財研究所との協議も再開した。その中で、地震によって入った躯体のひび等への補強剤が空気環境にどの程度影響を与えるかが懸念事項として挙げられた。

1月23日(月) 文化庁美術学芸課と協議  
2月9日(木) 東京文化財研究所と協議

#### (6) 追加工事の発生

躯体調査の報告では、外壁タイル等への被害も確認されており、安全性確保のため、建築工事の再開とともにその改修も必要となった。工程や予算面において、現行のリニューアル工事で外壁改修工事を行うことは難しく、別途の追加工事を行うこととなった。

#### (7) 平成29年度に向けて

平成29年度は引き続き、建築工事(～7月)及び展示改修業務(～3月)を進めて行く予定である。

## 4 資料の被害と対応

リニューアル工事に伴い、収蔵資料は民間の契約倉庫や本館敷地内のプレハブ倉庫、市所有倉庫等、数ヶ所に分散して保管していた。

### (1) 民間契約倉庫（資料保管倉庫）

【考古】舟形石棺を支えていた支持具がずれた（バランスが崩れ、左右1個ずつのみが利いている状況）。

【民俗】葉簞笥などが落下、横転した。

【動物】段ボール箱に梱包した剥製標本が数個落下し、鳥類剥製2点が破損した。液浸標本を納めたコンテナボックスは転倒し、ガラス瓶3本が破損。保存液のアルコールがすべて蒸発し、標本は干からびて変形してしまっていたため、廃棄した（計3種14点減失）。



### (2) 市所有倉庫（地質・理工資料等保管倉庫）

【地質】阿蘇溶結凝灰岩1点が破損した（ハンマーで割って採集した岩石標本であるため資料価値に大きな影響なし）。

水力発電機の転倒により、イノセラムス化石1点が破損・油汚染したため、可能な限り油を拭き取り、破片を接合した。恐竜の卵化石レプリカ収納トランクが破損・油汚染した（収納してあった

化石レプリカに被害なし）。また、続く余震に備え、積み上げていたコンテナは3,4段程度に並べかえた。

【理工】「水力発電機」の本体からのオイル漏れを確認し、油抜き（拭き取り）を実施した。

### (3) プレハブ収蔵庫

本館敷地内にある2階建ての建物で、外壁、床などにも被害を受けた。

【考古】キャビネットやコンテナが多数倒壊し、1階の甕棺・石棺（装飾古墳含む）、2階の旧石器時代の石器、縄文・弥生時代の土器・石器、山崎正董氏の古瓦コレクションなどが散乱した。担当学芸員が継続的に整理作業を実施している。



【歴史・美術工芸】泰勝寺旧蔵の位牌を納めていた保管箱が破損した（位牌本体は損傷せず）。

【民俗】棚から半鐘が落下し、七輪・壺（備前焼）が破損した。消防ポンプは片方の車輪が大破した（文部科学省「公立社会教育施設復旧補助金」申請中）。南洋カヌーは転倒し、一部が破損した。その他、学校机、提灯掛けの一部が落下し破損した。



【理工】 バンデグラフ、蛍光灯安定器、直流交流比較実験器のガラスおよびアクリル部分が破損した。分光器、電気呼鈴（ベル）も変形・断裂した。



#### (4) 熊本城天守閣（博物館分館）

【2階】 パネルの多くが壁面から落下した。また、越中形兜が兜掛けより落下していた。

【3階】 西南戦争関連の展示資料が多数転倒した。水漏れにより水損した資料もあり、市所有倉庫へ搬出して資料の保全処置を施した。



不開門付近に展示保管中の当館所蔵「六地藏幢」は笠部・龕部が落下・破損したため、修理を実施予定（文部科学省「公立社会教育施設復旧補助金」申請中）。



#### (5) その他

国指定重要文化財

【才園古墳出土品】 あさぎり町所蔵（寄託資料）

4月22日（金）、文化庁調査官による被災状況視察時に保管先へ同行し、箱の転倒等はない状況を確認した。視察時に、開梱を伴う詳細な確認作業は後日、改めて行うよう担当調査官より助言を受け、6月2日（木）に所蔵者及び県文化課立会いのもと開梱作業を実施した。全点確認の結果は異状なしで、文化庁美術学芸課にも報告した。

【木造東陵永興禅師倚像】 雲巖禅寺所蔵

（管理団体：熊本市）

上記「才園古墳出土品」と同様、4月22日（金）の文化庁助言を受けて6月2日（木）に確認作業を実施した。異状はなく、文化庁美術学芸課にも報告した。

【細川家舟屋形】 永青文庫所蔵（管理団体：熊本市）

6月9日（木）文化庁参事官による被災状況視察時に天守閣（博物館分館）内へ同行し、確認した。重要文化財「細川家舟屋形」の損傷はなく、船銘額、模型等の転倒もなかった。この視察時に、展示ケース内の湿度対策等についての助言を受けた。6月15日（水）に上記の助言を受けて、当館学芸員で応急対策（除湿剤の設置等）を実施した。

## 5 地震対応業務

### (1) 館外での対応業務

地震後は市役所職員が多岐にわたる災害対応業務にあたり、当館職員も主に以下の業務に従事した。

避難所運営（4/15～8/31） 延べ159日

物資搬送（4/18）

家屋被害調査（6/4～8/31） 延べ約50日

### (2) 博物館の地震対応業務

ア 民間所在の文化財・歴史・民俗資料の保全に関する呼びかけについて

平成24年7月の九州北部豪雨の時と同様、民間所在の文化財・歴史・民俗資料の保全の呼びかけを独自に行った（4月19日～）。熊本市公式facebookへの掲載及び報道投げ込み等により周知を図ったほか、熊本日日新聞などの報道機関にも取り上げられた。

各位  
平成28年4月19日  
熊本市立熊本博物館  
文化財・歴史・民俗資料等の保全について（お願い）

このたびの地震により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げますとともに1日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の大規模災害の際に、災害復旧時の後片付けや被災家屋撤去に伴い、文化財・歴史民俗資料の処分・廃棄が起きました。今回の被災で同様の状況になることは、貴重な歴史遺産が失われるにとどまらず、復興のよりどころが永遠に損なわれることになりかねません。

そこで、市民の皆様には被災により大変な時期とは存じますが、以上のような理由により、家に残されている古文書や古い本、自治会等の記録（地域の記録となりますので、時代の新旧を問わず）や資料、農具や機織りの道具、絵馬のような信仰に関わるもの、生活のための道具などの保全にご協力くださいますようお願いいたします。

仮に水に浸かったり、破損してしまった資料でも、今後修復することができ  
る可能性がございます。

この件についてご質問、ご要望等ございましたら、下記までお尋ね下さい。

（問合せ）熊本市教育委員会事務局  
教育総務部 熊本博物館  
TEL 096-324-3500  
FAX 096-351-4257

この呼びかけは現地での保存を第一義に考えたもので、資料レスキュー活動を前提としたものではない。

イ 熊本県博物館連絡協議会会長館としての活動

当館は熊本県博物館連絡協議会の会長館を務めていることから、事務局として4月20日（水）、21日（木）に加盟館に被害状況等の聞き取り調査を行った。項目は館名、現状、被災分野・資料・数量、必要な物資、必要な人数・専門家・分野、今後の見通し（休館等）、協力可能・要請内容などである。取りまとめた情報を加盟館に現段階状況として報告し、併せて西日本自然史系ネットワーク、歴史資料ネットワーク、みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム、全国歴史民俗系博物館協議会事務局にメールで情報提供を行った。また、5月13日（金）に行われた熊本県博物館連絡協議会臨時理事会にて、各施設の被害状況を報告した。

ウ 資料レスキューについて

資料保全の呼びかけ以降、市民の方から一時預かり依頼や取扱い方についての相談が相次いで寄せられた。所有者が保管場所を確保している場合は、震災以降の動向をヒアリングし、状況確認後に現地での保管をお願いした。

また、震災後の4月23日、レスキュー活動の一端を担う熊本被災史料レスキューネットワーク（以下、熊本史料ネット）が設立され、当館も協力することとなった。

資料レスキューの手順としては、電話での聞き取りや現場の実見後、現地での保存が難しい資料（家屋の倒壊により所有者が運び出せないもの、所有者本人が保管場所を確保できないもの）については、熊本県博物館ネットワークセンター、熊本史料ネット、熊本県や市町村各課等と協力し、家屋から資料を搬出して一時的に保管している。

4月25日（月）～

半壊の個人宅から古美術の運び出し（熊本県ネットワークセンター・熊本史料ネット・熊本県立美術館と協働）

5月2日（月）～

熊本市施設から資料搬出（熊本城調査研究センターと協働）

5月6日（金）  
個人宅事前調査。調査後、現地での保管を依頼

5月7日（土）～5月20日（金）  
半壊している個人宅から資料搬出

5月7日（土）～  
個人宅より資料搬出（熊本史料ネットと協働）

5月12日（木）～  
寺社からの依頼。事前調査および一時避難（熊本史料ネット関係者と協働）

5月14日（土）～  
個人宅事前調査

5月19日（木）～  
個人宅より資料搬出（熊本城調査研究センターと協働）

5月24日（火）～  
個人宅事前調査（熊本史料ネットと協働）

5月26日（木）  
益城町の文化施設事前調査および一時避難、個人宅事前調査（熊本県ネットワークセンターと協働）

6月2日（木）  
個人宅事前調査（熊本県伝統工芸館と協働）

6月6日（月）  
個人宅2件事前調査

6月13日（月）  
個人宅事前調査

#### エ 文化財レスキュー事業

文化庁から熊本県被災文化財救援事業（熊本文化財レスキュー事業）について『熊本地震によって被災した熊本県内の動産文化財等を緊急に調査・保全し、我が国の貴重な文化財等の廃棄・散逸を防止するための「熊本県被災文化財救援事業」を行います。』（文化庁公式ホームページより）との報道発表があった。

熊本文化財レスキュー事業が国が関わる本部レスキュー事業と位置づけられたことで、4月22日から行っていた資料レスキュー事業は「先行レスキュー」としての価値をもつことになった。熊本博物館は熊本県博物館連絡協議会（会長館）としてレスキュー

事業に参加・協力している。

6月22日（水）  
熊本県庁にて熊本文化財レスキューによる調整会議開催

7月6日（水）  
熊本県ネットワークセンターにて文化財レスキュー関連会議

7月11日（月）  
文化財レスキュー実施予定寺院の事前調査

7月13日（水）～  
熊本県被災文化財救援事業（熊本文化財レスキュー事業）の初回活動。  
内寺院解体に伴う資料搬出

7月14日（木）～  
個人宅事前調査

7月22日（金）～  
神社の資料搬出

8月2日（火）～  
寺院の資料搬出

10月19日（水）  
個人宅からの資料搬出

12月20日（水）  
神社の資料搬出・状態確認

2月2日（木）  
個人宅からの資料搬出

2月3日（金）  
個人宅からの資料搬出  
（H29.3.31現在）

また、上記のレスキュー事業以外にも毎週金曜日に開催される定例会議に参加し、レスキュー活動に関する情報交換を行っている。

#### オ その他

##### 地震に伴う鯨瓦寄贈と福岡市の一時保管協力

平成28年5月、城下町の店舗より鯨瓦1点をご寄贈いただいた。鯨瓦の全長は約113cm。本来付属するはずの胸鰭・腹鰭（計4点）は残念ながら失われていたが、全体的には大変良好な残存状態の鯨瓦である。

この鯨瓦は、少なくとも半世紀以上前から今日ま



で大切に保管されていたが、それ以前の詳しい経緯はわかっていない。今回の熊本地震で被災、4月14日の前震で倒れた際に尾鰭の一部が欠損した。その後、5月に現地にて資料確認、ご厚意で寄贈していただくことになった。しかし、当館もリニューアル工事中に被災した状況で、現状では資料の保管場所等がないため、以前から「資料移送と一時保管を含めた協力が可能」との連絡をいただいていた福岡市に対して、正式に協力を依頼することにした。

5月25日、資料受理書を寄贈者へお渡しすると同時に、福岡市博物館、福岡市文化財保護課のご協力を得て資料の受取・梱包を行い、2tトラックで福岡市博物館へ搬出した。現在も福岡市博物館内にて資料を保管いただいている状況である。併せて、一部破損箇所の修復も実施していただいている。

この鯨瓦は熊本城天守閣に用いられたもの（熊本城顕彰会所蔵：熊本博物館寄託）と同形・同サイズで、同じように「宝暦十三年」（1765）や小山の瓦師「助次郎」銘なども見られることから、今回寄贈された鯨瓦も、江戸時代中期に熊本城天守閣用の鯨瓦として製作されたものと考えられる。したがってこの2点で一対だった可能性もあるが、これらとは別に尾鰭のみの破片（天守閣跡出土品で焼けている：宝暦十三年銘）1点も存在することから計3点となり、その解釈は難しい。

この鯨瓦は今後、熊本城の復旧及び歴史を研究する上で、大変貴重な資料になるものと考えられる。

福岡市の皆様のご協力に対して、あらためて感謝申し上げます。



熊博発 第32号  
平成28年5月20日

福岡市長  
高島 宗一郎 様

熊本市長 大西 一史  
(熊本博物館取扱)

熊本地震に伴う被災文化財の移送と保管について (依頼)

標記のことに、福岡市の協力を受けたいので、下記のとおり依頼します。

記

- 移送並びに保管を依頼する品名及び数量  
宝暦十三 (1763) 年銘の縄瓦 1点
- 現在の所在場所  
熊本市
- 移送・保管を必要とする理由  
4月14日・16日に発生した熊本地震に伴い、縄瓦を保有していた建物が大きな損傷を受けた。建物の取り壊しを予定しており、現在の資料所有者は熊本博物館への寄贈を申し出ているが、現在リニューアル工事中であることから被災文化財の保管場所についても確保できず、また震災復興により車両確保が難しいため、これを依頼するもの。
- 保管希望施設および期間  
福岡市博物館  
平成28年5月25日から平成29年3月31日  
(保管期間が延長される場合は、改めて依頼を行います)
- 被災文化財管理責任者  
熊本博物館長 和田 仁
- 備考  
資料移送中の管理責任は、熊本博物館側にあるものとする。

### 被災資料片付け作業と学生ボランティア協力

当館（本館）はリニューアル工事中に被災したため、ほとんどの収蔵資料は梱包・引越・契約倉庫に保管した状態で、幸い被害は少なかった。しかし、敷地内プレハブ収蔵庫（特に2階：考古資料）が大きな被害に遭った。



収蔵棚が将棋倒しとなり、落下したコンテナや床上に散乱した大量の土器破片等で、収蔵棚間の通路も塞がってしまった。

地震直後に現場の被災状況を確認したものの、

様々な状況から、しばらくの間は考古資料の片付け作業に着手できなかった（註1）。

実際、担当学芸員が本格的に片付け作業に通えるようになったのは5月16日からであった。収蔵棚ごとに被災状況の記録を残すためにカルテを作成し、土器片回収・棚起こしに着手した。

作業場所	<input type="checkbox"/> プレハブ1階 <input type="checkbox"/> プレハブ2階	作業年月日	平成 年 月 日 ( )AM/PM
担当者	学芸員(主幹) 美濃口紀子	参加職員	
時代	<input type="checkbox"/> 旧石器 <input type="checkbox"/> 縄文 <input type="checkbox"/> 弥生 <input type="checkbox"/> 古墳 <input type="checkbox"/> 古代 <input type="checkbox"/> 中世 <input type="checkbox"/> 近代 <input type="checkbox"/> 現代		
保管場所	列番号 列目 棚記号 一 段番号 上から( )段目 右 / 左		
現 状	付札の有無 <input type="checkbox"/> 有(No. / 名称) <input type="checkbox"/> 無		
	注記の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 所蔵 <input type="checkbox"/> 寄贈品 <input type="checkbox"/> 寄託品 <input type="checkbox"/> 借用品 <input type="checkbox"/> 発掘品		
	資料素材 <input type="checkbox"/> 石器 <input type="checkbox"/> 青銅器 <input type="checkbox"/> 鉄器 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> ガラス製品 <input type="checkbox"/> 布製品 <input type="checkbox"/> 紙製品 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 埴輪 <input type="checkbox"/> 土師器 <input type="checkbox"/> 須恵器 <input type="checkbox"/> 陶器 <input type="checkbox"/> 磁器 <input type="checkbox"/> 瓦質土器 <input type="checkbox"/> 漆器 <input type="checkbox"/> 瓦 <input type="checkbox"/> その他( )		
	収蔵棚 <input type="checkbox"/> 異状ナシ <input type="checkbox"/> 棚の傾斜・崩落が発生、通路を塞ぐ		
	コンテナ <input type="checkbox"/> 異状ナシ <input type="checkbox"/> コンテナの落下(中身は維持、そのまま現状復帰が可能) <input type="checkbox"/> コンテナの落下(中身がこぼれ出て散乱、他の遺物との混在ナシ、分別・回収可能) <input type="checkbox"/> コンテナの落下(中身がこぼれ出て散乱、他の遺物と混在、分別・回収は不可能)		
破損	<input type="checkbox"/> 有(新たな破損・接合部分からの石膏脱落・ヒビ割れなどの傷など) <input type="checkbox"/> 無		
備考			
処 置 内 容	収蔵棚 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 棚を起こす <input type="checkbox"/> その他( )		
	コンテナ <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> コンテナを起こす <input type="checkbox"/> ビニールに収納 <input type="checkbox"/> その他( )		
	資料混在 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(分別・回収実施) <input type="checkbox"/> 有(分別・回収不可能→「出土不明」扱い)		
備考			
図・写真・処置後の状態	今後の検討課題		
	01 収蔵棚(新規)の購入		
	02 収蔵棚(破損)の廃棄		
	03 コンテナ(新規)の購入		
	04 コンテナ(破損)の廃棄		
	05 その他 消耗品の購入		
	06 その他 破損品の廃棄		
	07 資料修復(有識者相談)		
	08 資料修復(見積依頼)		
	09 プラスチックロープ設置		
	10 落下防止ネット設置		
11 プレハブの安全性・寿命			

熊本博物館 (H28熊本地震:考古資料被害状況)



都合のつく学芸員数名で少しずつ片付けを進めたことで、次第に収蔵棚間の通路も確保され、大勢で作業を行うスペースも確保できるようになった。

資料を被災前の収納状況に戻し、なおかつ今後の地震で同じような散乱状況を引き起こさないため

に、以下のような作業手順を考えた。

**考古資料片付け作業マニュアル**

別府大学の皆様へ  
この度は熊本地震で被災した当館の復旧作業にご協力いただき、ありがとうございます。当館（本館）はリニューアル工事中に被災したため、ほとんどの収蔵資料は梱包・引越・契約倉庫に保管した状態で、幸い被害は少なかったのですが、敷地内に残しているプレハブ収蔵庫（特に2階：考古資料）が大きな被害に遭いました。今回は、その片付けをお手伝いいたします。厳しい環境下での作業となり大変恐縮ですが、何卒よろしくお願ひ致します。  
熊本博物館 考古担当学芸員 美濃口紀子

- 作業日程 8/12（金）・8/26（金）・8/29（月）・9/5（月）・9/6（火）※計5回予定
- 作業時間 9:30～16:30予定 ※昼休 12:00～13:00（別途午前・午後休憩も）
- 作業場所 熊本博物館（中央区京町町3-2）プレハブ収蔵庫 及び 南玄関前ビロテ
- 作業内容
  - 倒れたキャビネットを起こす・コンテナを戻す・散乱した土器を回収。  
※博物館学芸員が作業実施中。キャビネット起こしは全て完了。
  - キャビネット毎にコンテナ搬出、ラベル（遺跡名等）と中身を照合。  
※中に散乱した土器片等を回収し戻す際に、混在している可能性もあり。  
※コンテナラベルの資料（注記）が合致しない場合は、学芸員へ伝える。  
※軍手・マスク・袖巾、階段での昇降となるので、ケガがないよう注意。
  - 土器・石器等をビニール袋に入れる。箱内で分類があれば分けて収納。  
※今後、同じような地震が発生しても、ビニール袋単位で箱に戻せるように。  
※中にラベルが入っている場合は、文字が見やすいように袋に入れること。  
※ラベルがない場合、注記（遺跡名などが小さく記載）がないか確認。  
※ビニール袋（サイズ違いでNo.12・14・16・18・ゴミ袋を使い分ける）
  - （コンテナにラベル貼付がない場合は）ラベルに情報を記入し貼付する。  
※コンテナを取り出さなくても、重ねた状態で中身が一望できるように。  
※ガムテープ・養生テープ・マジック・筆記具
  - キャビネットにコンテナを戻す（コンテナは番号順に並べ替えて保管）。
  - キャビネット1台につき「プレハブ収蔵庫カルテ」1枚を記入する。  
※「プレハブ収蔵庫カルテ」は、館職員の記入・入力が良いと思います。  
※「プレハブ保管場所一覧表」（書式あり：梱包用スケッチも）・筆記具
  - コンテナ毎のラベル情報を「プレハブ保管場所一覧表」に記入する。  
※「期No」「時代」「遺跡名」「資料名」「区分（寄贈ほか）」「受入先」等  
※これで資料の住所（保管場所：例 A外12-8箱目など）が決まる。  
※「プレハブ保管場所一覧表」（書式あり）・筆記具
  - 「プレハブ保管場所一覧表」へ情報入力後、メール添付で後日返信  
※現場でメモした本人でないこと、文字が解読できない可能性もあるので…  
※「プレハブ保管場所一覧表」に手書きした文字情報、パソコン
- 緊急連絡先 熊本博物館（096-324-3500） 美濃口学芸員：携帯（090-====-====）
- 弁当注文 == 店（== 096====）
- 博物館職員当番表 ※裏面参照

- 倒れた収蔵棚を起こす・コンテナを戻す・散乱した土器を回収。
- 収蔵棚毎にコンテナ搬出、ラベル（遺跡名等）と中身を照合。
- 土器・石器等をビニール袋に入れる。箱内で分類があれば分けて収納。
- （コンテナにラベル貼付がない場合は）ラベルに情報を記入し貼付する。
- 収蔵棚にコンテナを戻す（コンテナは番号順に並べ替えて保管）。
- 収蔵棚1台につき「プレハブ収蔵庫カルテ」1枚を記入する。
- コンテナ毎のラベル情報を「プレハブ保管場所一覧表」に記入する。

しかし、上記の手順は、床上に多数散在している土器片を「縄文土器と弥生土器に分類する」など、考古資料の識別能力が必要な作業も含むため、考古担当学芸員（1名）以外の館職員では対応が難しく、なかなか作業が進まなかった。また、手順③は今回の反省、すなわち「今後、

同じような地震が発生して資料が散乱しても、1つ1つの土器片単位ではなく、せめてビニール袋単位で元の収納箱に戻せるように」との思いから、担当学芸員として特に必要性を痛感した部分であった。

そこで、地震直後から協力の打診をいただいていた別府大学にお願いして、夏休みを利用したボランティアとして片付け作業にご参加いただくこととなった。史学・文化財学科の院生をはじめ、考古専攻の学生（11名）と教員（渡辺智恵美氏・田中裕介氏）の計13名が交替で各日5～6名ずつ参加いただいた（8/12・8/26・8/29・9/6に実施、9/5は台風で中止）。

実際に別府大学の学生に依頼した作業内容は、前述手順のうち主に②～⑤である。学芸員と教員指導のもと、考古専攻の学生たちがその技能を生かしながら分類・収納作業を進めた。その様子は地元新聞からの取材を受け、掲載された。

暑い中、このような片付け作業にご協力いただいた別府大学の皆様に対して、あらためて感謝申し上げます。



註1）熊本地震の前震（4/14）直後より、当館宛てにも全国各地の関係機関・団体・研究者等から、被害確認・お見舞いの言葉・片付け作業協力打診等の連絡を多数いただいた。しかし、当面は余震が続く中で、学芸員も重要文化財をはじめ収蔵資料の被害状況確認等の博物館業務を行いつつ、一方では市役所職員として前述のような避難所対応業務（昼夜交替）等に追われる日々が続いた。そのため、協力相手方との打合せ（作業期間・作業内容・交通手段・駐車場・宿泊先・保険・その他様々な手続き等）を進め、さらに現場における安全管理上の協議（リニューアル工事JVとの現場調整等）を含めて受入体制を整えるまでにはしばらく時間がかかった。この点、今回の別府大学のケースでは熊本市内出身の学生を中心にメンバーを構成し、週末前後に作業日を設定することで実家から博物館への通いにするなど、効率的に計画していただいたおかげで実現することができた。

# 縄文・弥生期の土器片散乱

## 爪痕

### 熊本地震

全館改装工事に伴う長期休館中に熊本地震に遭った熊本市立熊本博物館

(中央区古京町)。収蔵品は倉庫や県立美術館などに梱包整理されていたことが幸いし、重要文化財は守られた。

しかし、土器類には被害が出た。敷地内の収蔵庫は保管棚が将棋倒

しになり、縄文・弥生期の土器片や石器などが入ったコンテナ約2500箱の大半が散乱。土器片をつないで復元した高さ約1・2メートルの弥生期の甕櫃も、多くが破損した。

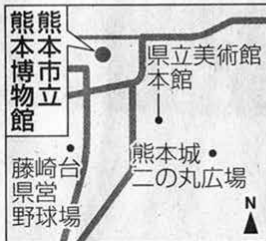
学芸員らは、資料を戻す作業に追われる。「館報用に図面を作った直後。記録の大切さが身に染みた」と考古担当学芸員の美濃口紀子さん(45)。6日は別府大(大分県)の考古学専攻の学

生5人が手伝いに来た。熊本市出身の村田仁志さん(23)は「遺物に直接触れることができる体験は貴重ですし、熊本の力になりかった」。

見られないが、骨組み部分の安全調査中。工事再開は12月ごろになる見込みで、再開館は2017年末から18年にずれ込みそつだ。(石本智) 〓 随時掲載



熊本地震で保管棚が倒れ、土器片などが散乱した熊本博物館の収蔵庫  
= 熊本市中央区



熊本地震で散乱した土器片を元の箱に戻す作業に当たる別府大の学生たち

### 古京町別館分室内図書資料の移動

熊本市役所古京町別館の被災により、別館内に保管していた当館図書資料も被害を受けた。

古京町別館は応急危険度判定にて「危険」と判定され立入りが制限されていたため、実際に室内の図書資料の状態が確認できたのは、余震発生の頻度が低下した6月に入ってからであった。

室内では本棚がドミノ倒しの状態になっており、大量の図書資料が床に散乱していた。また、本棚のほとんどは度重なる大きな揺れの影響でフレームが歪んでしまっていた。



倒れた本棚と散乱した図書資料

古京町別館の解体決定に伴い、図書の移動が必要となった。関係各課と連絡・調整を図りながら、一時保管場所を確保した上で、7月より移動に向けた準備作業を行った。室内の雨漏りによって水損したりカビが発生したりしている図書資料を除き、各分野毎に分類しながら図書資料をダンボール箱に梱包した。空調が壊れた室内での梱包作業は、1日2～3時間程度とし、数日に分けて作業を進めた。梱包した図書資料の一時保管場所への運搬は、職員の監督の下、運送業者に委託して行い完了した。

今回の移動はあくまで一時的な措置であり、今後の図書資料保管については改めて検討する必要がある。